

製品名: ETO-2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10647

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | CBFA2T3 |
| 別名 | CBFA2T3; MTG16; MTGR2; ZMYND4; Protein CBFA2T3; MTG8-related protein 2; Myeloid translocation gene on chromosome 16 protein; hMTG16; Zinc finger MYND domain-containing protein 4 |
| 遺伝子 ID | 863.0 |
| SwissProt ID | O75081 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト MTG16 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 261-310 |

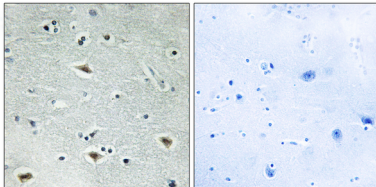
背景

この遺伝子は、DNA 結合型転写因子と相互作用し、転写抑制を促進する様々なコリプレッサーをリクルートする骨髄転座遺伝子ファミリーのメンバーをコードしています。t(16;21)(q24;q22)転座は、急性骨髄性白血病においてまれな核型異常の一つです。この転座により、runt 関連転写因子 1 遺伝子の 5'領域とこの遺伝子の 3'領域が融合したキメラ遺伝子が生成されます。この遺伝子は、乳がんの抑制因子としても機能すると推定されています。選択的スプライシングにより、転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2010 年 11 月],疾患: 治療関連骨髄悪性腫瘍において、CBFA2T3 に関連する染色体異常が認められます。RUNX1-CBFA2T3 融合タンパク質を形成する転座 t(16;21)(q24;q22)。,機能: 転写抑制因子として機能する。TAL1 標的遺伝子の発現を抑制することで、赤血球系前駆細胞の増殖と分化を制御する。顆粒球分化において役割を果たす。アイソフォーム 2 は A キナーゼアンカータンパク質として機能する (PubMed:11823486)。,誘導: オールトランスレチノイン酸によってダウンレギュレーションされる。 ,類似性: CBFA2T ファミリーに属する。 ,類似性: MYND 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。 ,類似性: TAFH (NHR1) ドメインを 1 つ含む。 ,細胞内局在: RUNX1-CBFA2T3 融合タンパク質は核質に局在する。 ,サブユニット: 少なくとも CBFA2T3、LDB1、TAL1、および TCF3 から構成される TAL-1 複合体の構成要素 (類似性による)。 RUNX1T1 および CBFA2T2 とヘテロ二量体を形成する。 ERBB4、HDAC1、HDAC2、HDAC3、HDAC6、HDAC8、NCOR1、NCOR2、および ZNF652 と相互作用する。 Hoogveen ら (PubMed:12242670) によると、HDAC6 とは相互作用しない可能性がある。アイソフォーム 2 は PRKAR2A、PDE7A、そしておそらく PDE4A と相互作用する。 ,組織特異性: 心臓、膵臓、骨格筋、脾臓、胸腺、末梢白血球で高い発現を示し、広く発現している。造血細胞でも発現している (タンパク質レベル) 。 ,

研究分野

-

画像データ



MTG16 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。